

教科「国語」シラバス

Ⅰ. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語	週の授業数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 国語Ⅱ	2	中学 第二学年	『国語Ⅱ』(光村書店) 『的確につかむ 文法の学習』(浜島書店) 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』(桐原書店) 『改訂版 ビギナーズ古典(古文・漢文)』(尚文出版) 『基礎から学ぶ書く力 ロジカル国語表現Ⅱ』(好学出版)
学習の到達目標	① 前年度からの続きとして、現代文法を学ぶ(知識の習得と、その運用能力)。 ② 基本的な古文や漢文を、自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力を身につけること(主体性を基本とした確かな読解力)。 ③ ②に向けて、基本的な古文単語や文法事項、古典常識、文学史などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけること(知識の習得と、その運用能力)。 ④ 古典世界と現代社会との対比を通して、古代人の思想や思考、生活などを自ら探究し、想像する力を高めること(探究力と想像力)。 ⑤ 古文や漢文の内容について、他者との対話や議論を通して、自分の考えを表現したり、他者の考えに共感したりする力を身につけること(表現力と共感力)。		
評価の観点	現代文法を習得することで、文章表現の正しい方法を獲得している。古典分野においては、基本的な古文単語や文法事項、古典常識、文学史などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけている。《知識・技能》		
	現代文法を体系的に学んだことで、口頭表現/文章表現ともに、その力を向上させている。古典分野においては、古典世界と現代社会との対比を通して、古代人の思想や思考、生活などを想像する力を高め、古文や漢文の内容について、他者との対話や議論を通して、自己の考えを表現する力を身につけている。《思考力・判断力・表現力》		
	現代文法を学び直し、自身の日常における表現を見直す契機とする。古典分野においては、基本的な古文や漢文を、自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけている。《主体性・多様性・協働性》		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】

A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………	100%
B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………	80%
C: 「努力を要する」状況と判断されるもの……………	60%
D: 未提出、未実施……………	0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
Ⅰ 学期 中間 考 査 ま で	①用言の復習 ②連体詞・副詞 ③格助詞「の・が」 ④接続助詞「て・が・ば」 ⑤副助詞「は・も・こそ・さえ」 ⑥終助詞「か・な」 ⑦総復習	①～⑦現代文法の連体詞・副詞・助詞について理解する。授業で扱った助詞についてはその意味や用法を覚える。 ①～⑦習得した文法知識に関して、それらが日常で使われているときの文法的意味を弁別できるようになる。	*助詞に関しては、教科書掲載の全てを扱うのではなく、特に重要なものに絞る(教科会にて選別)。 *使用教材 『的確につかむ 文法の学習』
Ⅰ 学期 期 末 考 査 ま で	①助動詞「れる/られる・せる/させる・ない/ぬ・た・よう/う」 ②歴史的仮名遣 ③古文の読み方 ④陰暦・古時刻・古方位	①現代文法の助動詞について、授業で扱ったものに関してはその文法的意味と活用表とを覚える。 ①前年度履修範囲の用言の知識と総合し、助動詞を文中にて円滑に活用させることができるようになる。 ②③古典文法を学ぶ基礎として、歴史的仮名遣や読み方を復習する(当該項目は前年度の履修範囲)。 ④古典文法を学ぶにあたり、その時代の背景や文化を知る。	*助動詞に関しては、教科書掲載の全てを扱うのではなく、特に重要なものに絞る(教科会にて選別)。 *古典分野に関しては暗記ベースの基本事項が主となる。 *使用教材 『的確につかむ 文法の学習』 『改訂版 ビギナーズ古典(古文・漢文)』 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』
2 学期 中 間 考 査 ま で	①動詞の活用 ②古典作品を読む(作品未定)。	①古文の文章を読むために必要な動詞について、その活用の種類や活用表を学ぶ。 ①それぞれの動詞について、その活用の種類や活用形を正確に見分けることができる。 ②学習した文法事項を確認しながら、文章読解をする。	*用言の活用を、自力でできるように練習を重ねる。 *文章読解においては、現代語訳と対校させながら、その内容も理解させるようにする。 *使用教材 『改訂版 ビギナーズ古典(古文・漢文)』 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』
2 学期 期 末 考 査 ま で	①動詞の活用 ②古典作品を読む(作品未定)。	①古文の文章を読むために必要な動詞について、その活用の種類や活用表を学ぶ。 ①それぞれの動詞について、その活用の種類や活用形を正確に見分けることができる。 ②学習した文法事項を確認しながら、作品を読んでいく。文法的な理解だけでなく、文章の書かれた背景や文学的意味についても考える。	*用言の活用を、自力でできるように練習を重ねる。 *使用教材 『改訂版 ビギナーズ古典(古文・漢文)』 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』 『国語2』(国語Ⅰの教科書)
	①形容詞、形容動詞の活用	①形容詞・形容動詞について、その活用の種類や活用表を正確に見分けることが	*用言の活用を、自力でできるように練習を重ねる。

3 学 期 期 末 考 査 ま で	②漢文の返り点・書き下し ③古典作品を読む（作品未定）。	できる。 ②漢文について知る。 ②漢文の返り点や書き下しについて、そのルールを学び、漢文を読めるようになる。 ③学習した文法事項を確認しながら、作品を読んでいく。文法的な理解だけでなく、文章の書かれた背景や文学的意味についても考える。	*古文と漢文との互換性を説明し、古文の学習を基底とした漢文訓読を意識させる。 *使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』 『改訂版 ビギナーズ古典(古文・漢文)』
---	---------------------------------	--	--

【成績評価の概要について】

(1) Ⅰ学期における評価の対象（国語Ⅱ）

- ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ③ 授業内で行う小テストや、授業への取り組み姿勢などの平常点：40点（関心・意欲・態度などの評価）

(2) 学期評定の算出方法

- ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。

(3) 年度末評定の算出方法

- ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。